第１学年　体育科学習指導案

令和２年１月２１日（火）第５校時
男子８名　女子１７名　計２５名
活動場所　　体育館
指 導 者　　川野　綾花
岡崎　隆太

１．　「めざせ！スーパー1 年生！！～アドベンチャーワールドへしゅっぱつ！！～　」
（多様な動きをつくる運動遊び）

２．単元について

〇教材観

体づくりの運動遊びは，「体ほぐしの運動遊び」及び「多様な動きをつくる運動遊び」で構成され，体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに，伸び伸びと体を動かしながら，様々な基本的な体の動きを身に着けることを主な目的とする運動遊びである。低学年では，体ほぐしの運動遊びや多様な動きをつくる運動遊びの行い方を知り，自己の心と体の状態に気付いたり，みんなで関わり合ったりするとともに，様々な基本的な体の動きを楽しく経験することにより，動きの幅を広げ，中学年の体つくり運動の学習につなげていくことが求められる。運動遊びの楽しさに触れ，結果的に体力の向上を図るとともに，この時期に基本的な体の動きを幅広く培っておくことが重要であり，他の領域において扱いにくい様々な動きを取り上げるものでもある。

多様な動きをつくる運動遊びでは，体のバランスをとったり，移動をしたりする動きや用具を操作したり，力試しをしたりする動きを通して，体の基本的な動きを総合的に身に付けるようにする。

〇児童観

＜態度・意識面事前アンケート＞

項目	全体評価		評点
	4 月	12 月	
楽しむ	13.8	13.6	5
わかる	12.4	12.8	5
できる	13.4	13.0	5
まもる	14.0	14.1	5
合計	53.6	53.5	5

本学級の児童は，年度当初の体育授業についての診断的・総括的授業評価結果は，４観点のいずれも高く，体育授業に対する愛好度は高いと言える。４月と１２月の数値を比較しても大きな変容は見られないが，（わかる：学び方）の項目において向上を見て取ることができる。12.4⇒12.8 と４観点の中での数値としては一番低いものの，運動を「楽しみ」ながら「わかる」学びへと少しずつ変容してきているのではないだろうか。

これは一年を通じて友達とのかかわりの中で様々な運動を経験してきた成果であるととらえている。休み時間には，友達と誘い合って，ボール遊びをしたり，遊具や雲梯で遊んだりなど運動に親しんでいる児童が多く，色々なことに挑戦しようという前向きな様子も見られる。

一方で，授業の様子をふり返ると運動が今できることを楽しむもので止まってしまい，「もっと上手になりたい」といった自分のめあてや「もっと上手になるにはどうすればいいかな」といった上手な友達から学ぶといった学びには至っていない児童がまだまだ見られる。また，友達と仲が良くても，ペアを作ることや手をつなぐなどの直接的なかかわりに苦手意識をもつ児童も数人おり，そのような活動の時には集団から離れてしまう場面も見られるため，活動への意識を高めながら全員がかかわり合える活動をどう仕組むのかが授業づくりの課題と言える。

〇指導観

本単元は，全７時間の単元構成で行う。低学年の段階として，様々な運動を経験した上で，無理なく高めていけるよう夢中になって楽しく活動できる場を設定していく。運動が苦手な子や恐怖心がある子が「たのしい」「できそう」「いっしょにもっと」と思えるようなやさしい場とやさしい活動で構成していく。どのような動きがよい動きなのかが児童にも分かるように，実際に動きを共有したり，写真などの掲示物で動き方をイメージさせたりしながら活動を進められるようにする。

単元全体を通して，毎時間の学習活動を①多様な動きを高める運動遊びローテーション②なわとび遊びとの２つのユニット（運動遊び）で構成する。

多様な動きを高める運動遊びローテーションについては，単元の前半ではバランスや移動，力試しの３つの動きを経験していく。３つの動きを経験できる場をいくつか設定し，それぞれの場ではどんな遊びをするのか理解させていく。バディ（グループ）をつくり，ローテーションを組み，一人ひとりが全ての動きを経験できるようにしていく。

単元後半では，経験した動きを生かして，さらに多様な動きを高める運動遊びを目指していく。今できる動きを高めていくために子ども一人ひとりが課題をもち，それぞれ違った動きを楽しみながら行っていけるようにする。動きを工夫したり組み合わせたりして，友達と一緒に考えた運動遊びをしていくものや難易度を上げたものに挑戦できるようにしたい。

色々な動きを子どもたちの「やってみたい」を引き出しながら，楽しさが味わえるような魅力ある活動の場を工夫する。また，児童の関心・意欲が持続するよう複数の活動の場を設定し，音楽なども効果的に活用していく。

本時は，単元前半の最終場面として前時までに経験した動きについて，バディ（グループ）で「もっとやってみたい」「もっとこうしてみたい」という思いに応じて，動きを選択して工夫できるようにしたい。よい動きを称賛したり，他の児童に紹介したりしながら動きが多様化するように促していく。また，バディ（グループ）は単元を通じて固定せず毎時間変えるようにする。そうすることによって新しい仲間とのかかわりが生じ，交友関係も深まっていくと考える。

３．単元の目標

(1) 色々な運動遊びの楽しさに触れ，多様な動きを経験し行い方を知るとともに，体を動かす心地よさを味わうことができる。（知識・運動）

(2) 遊び方を工夫するとともに，友だちのよい動きや楽しい遊び方を見つけて，考えたことを友だちに伝えることができるようにする。（思考力，判断力，表現力等）

(3) 運動遊びに進んで取り組み，きまりを守り，誰とでも仲良く，場や用具の安全に気を付けて，遊ぶことができるようにする。（学びに向かう力，人間性等）

４．本単元における体育の見方・考え方

本単元では，「色々な運動遊びの楽しさに触れ，様々な動きを経験し行い方を知るとともに，体を動かす心地よさを味わうことができること。またそれらの遊び方を工夫するとともに，友だちのよい動きや楽しい遊び方を見つけて，考えたことを友だちに伝えること。さらに，運動遊びに進んで取り組み，きまりを守り，誰とでも仲良く，場や用具の安全に気を付けて，遊ぶことができる等，児童一人ひとりの運動経験の程度に応じて多様な動きをつくることと，運動遊びの多様な関わり方を関連付けること。」とおさえる。

５．単元の評価規準（学習活動に即した評価規準）

知識・運動	思考・判断・表現	主体的に運動に取り組む態度
① 運動遊びの楽しさに触れ，体を動かす心地良さを味わうことができる。 ② 運動遊びの行い方を知るとともに，基本的な動きを身に付けることができる。	① 多様な動きをつくる運動遊びの遊び方を工夫することができる。 ② 友だちの良い動きや自分の工夫した遊び方を友だちに伝えることができる。	① 運動遊びの楽しさを感じながら，運動遊びに進んで取り組むことができる。 ② きまりを守り誰とでも仲良く運動できる。 ③ 用具の準備や片付けで分担された役割を果たそうとしている。 ④ 場の安全に気を付けて，運動遊びに取り組むことができる。

６．指導と評価の計画（第１学年：６時間扱い）

※別紙参照

７．本時の展開（５／６時間）

(1) 本時の目標

・運動遊びの楽しさに触れ，体を動かす心地良さを味わうことができるようにする。（知識・運動）

・多様な動きをつくる運動遊びの遊び方を工夫することができるようにする。
（思考力，判断力，表現力等）

・運動遊びの楽しさを感じながら，運動遊びに進んで取り組むことができるようにする。（学びに向かう力，人間性等）

※本時では，（　思考力，判断力，表現力　　）を主として評価する。

(2) 本時での深い学びを実現する工夫

本単元の深い学びを，児童にとっての良い動きの工夫と捉える。良い動きとは多様な動きをつくる運動遊びに示されているバランス・移動・力試し・用具操作の動き方の工夫とし，工夫とは動きのパターンを選択することと捉える。また，選択肢としては，場や用具の使い方，コース，人数，遊び方（競争・達成）とし，児童一人ひとりが自己の興味関心や発達段階に応じてこれらの活動を仲間と共に選び，夢中になって活動する姿が達成された状況を深い学びの達成とする。

そのための手段として，アドベンチャータイムにおいては４回の活動ローテーションを行う中でより良い動きや仲間同士のかかわりの良さを見つけ取り上げるようにする。さらに，担任は学び方について，体育専科は動きについてそれぞれの良さを取り上げ，価値づけることで子どもたちがどちらも意識できるように促すようにする。

(3) 本時で児童が働かせる「体育の見方・考え方」に対する教師の手立て

毎時間の授業において，振り返りの場面で体育の見方･考え方に関する気付きを取り上げて，価値付けし，全体に広げられるようにする。

(4) 準備物

コーン６個，マット，跳び箱，セーフティーマット，長なわ，黒板，学習カード

(5) 本時の展開

	本時のめあて・学習活動	○教師の働きかけ　☆評価（評価方法） ●体育の見方・考え方への気づきを促す働きかけ
導入	１．体ほぐしの運動を行う。 ・体じゃんけん ・リズムで変身（うさぎ，くまなど）など	○たいこのリズムに合わせて体を動かし，多様な動きをつくる４つの動きを含む運動をさせる。色々な友だちと関われるように促す声かけをする。
展開	２．学習のめあてを確認する。 じぶんのくふうしたうごきをともだちにつたえよう。	○めあて・学習の流れ・ルール等を提示し，学習の見通しが持てるようにする。
	３．アドベンチャータイム ４か所をローテンションして，色々な用具を使った遊びに取り組む。 ・肋木， ・ステージ ・棒，フラフープ ・ケンステップ	○教師が４つのグループに分け，時間ごとにローテーションしながら活動する。 ●４つのコーナーを回り終えたら，バディやグループの動きや学び方でよい選択をしたバディの活動を全体に広げるようにする。 ○２回目のローテーションは実態に応じて行う。
	４．ぴょんぴょんタイム ・一人短なわ ・長なわを使った遊び	○音楽を掛けて，楽しい雰囲気でとび縄に親しめるようにする。 ○長なわでは，グループでどんな跳び方をするか決めさせる。

まとめ	5．学習の振り返り ぼく・わたしは， □□(どこ)で，○○(うごき)を ☆☆(どんなふうに)してくふうしました。 ・本時のめあてについてと友だちの良かったところをバディで伝え合う。 ・全体で振り返りを共有する。 7．後片付けをして終了	●自分やバディで選んだ動きやくふうしたことを伝えられているバディを認めて褒める。 ☆多様な動きをつくる運動遊びの遊び方を工夫することができる。（観察，発言，学習カード） ○全員で協力して後片付けができるように，声かけをする。

(6) 板書計画

1月21日(火)

めざせスーパー1年生！アドベンチャーワールドへしゅっぱつ！！

めあて　じぶんのくふうしたうごきをともだちにつたえよう。

アドベンチャータイム

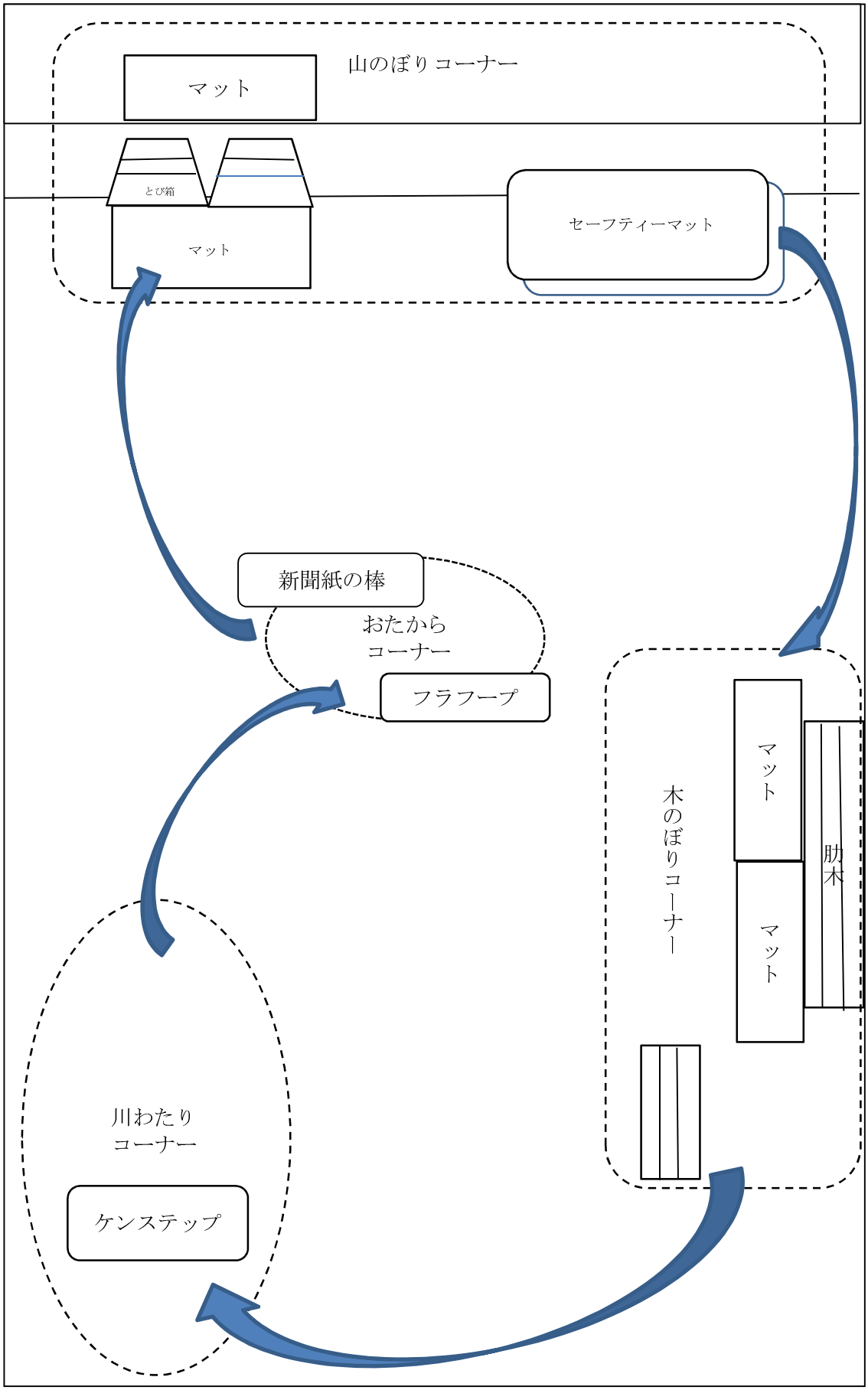
山のぼりコーナー	木のぼりコーナー	川わたりコーナー	おたからコーナー

ぴょんぴょんタイム

ふりかえり
ぼく・わたしは，□□(どこ)で，○○(うごき)を
☆☆(どんなふうに)してくふうしました。

やくそく
☆いつでもどこでもだれとでも
☆あんぜんに
☆目・耳・こころ

（7）　場の設定


山のぼりコーナー
マット
とび箱
マット
セーフティーマット
新聞紙の棒
おたから
コーナー
フラフープ
木のぼりコーナー
マット
マット
肋木
川わたり
コーナー
ケンステップ

８．授業後の話し合い

運動量が多く，テンポよく力いっぱい楽しそうに活動できてきたことや様々な体ほぐしの動きを取り入れていたことは良かった。雰囲気も良く児童の積極的な姿が見られた。

また，バディで工夫について考え，積極的に伝えようとする姿勢が見られた。バディで話したことを全体に伝えるときに，実際に児童がやって見せて，それを皆が真似する場と時間があってもよかった。

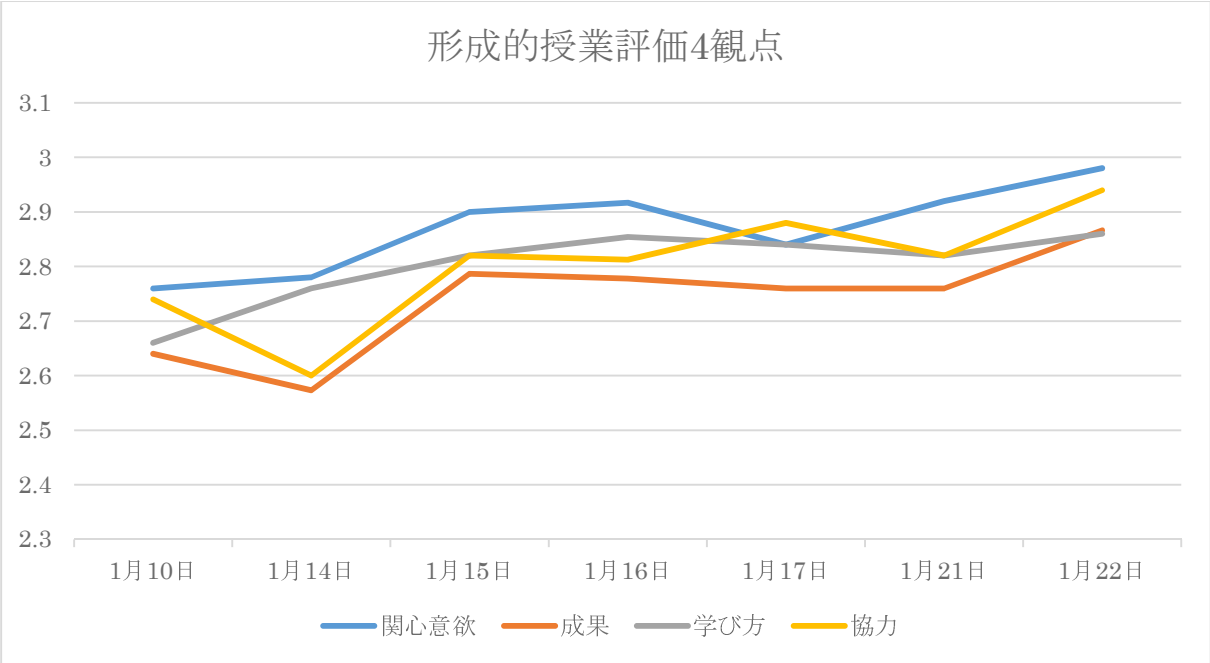
動き方の工夫には，どのようなものがあるか，視覚的に提示していたことは，分かりやすかった。動き方の工夫について視覚化した「くふうの木」は，絵と文字の色使いの配慮など児童が一目で分かるようにしたらよかったことや児童が見つけた工夫の実を少しずつ増やしていき，場に合った工夫の実を掲示すれば，児童が工夫した動きとは何かが理解しやすく，新しい動きを考えることができたのではないか，という意見があった。

また，多様な動きを経験するローテーションで活発になった児童の意識や動きがなわとびで止まってしまった印象があった。そのため「多様な動きを経験するローテーション活動となわとび運動の２つのユニットの構成を工夫することで児童の活動への意識が変わり，活動が活性化するであろう。」という提言があり，活動の山場を最後に持ってきた方が児童の意識に合ったのではないかと考える。

また児童の達成度に合わせて赤白帽子の色を変える時には，最後には全員が色を変えられる手立てがなかったことや集団に入りにくい児童に対してその子にあった役割を与えるなどの手立てがあればよかったという意見があり，友達とうまく関われない子，運動で苦手意識の強い子への対応をあらかじめもっと考えておくべきであったと考える。

Ⅱ　授業の考察

(１)形成的授業評価の結果と考察



「関心・意欲」の観点では，体育館に児童にとって魅力的な場が組まれていることや次々と色々な動きを体験できることから，楽しんで運動に取り組む様子が見られた。また，回数を重ねるごとにできることが増えていったり，工夫したりできることから概ね数値は上がっていっている。途中，同じやり方では飽きてしまう雰囲気も少しあったが，工夫の仕方を掴むと意欲がさらに上がっていった印象である。

「学び方」の観点では，初めにほぐしの運動，めあての確認，次にアドベンチャータイム，最後にぴょんぴょんタイムというように時間構成の仕方を統一していたため，児童はこの単元の学習の流れを早く掴むことができていたのではないかと考える。また３つの約束を示し，評価したことで児童が意識できていた。

「成果」「協力」の観点では，一時間目に体験的にバディでのローテーションを試した後に，二時間目にフラフープと棒やケンステップを一斉に体験する流れをとったために，成果面では落ち込みがあるが，その後の時間ではローテーションでバディと相談しながら，動きを見つけていくことことに楽しさを感じ，達成感や連帯感を感じることができたことが伺える。

(2)成果と課題

① 知識及び運動

児童は，アドベンチャータイムやぴょんぴょんタイムにできる動きを自分たちなりに考えたり，紹介してもらった動きをやってみたりして，楽しみながらできる動きを増やすことができていた。

児童が見つけた工夫の仕方を掲示していたが，本時までに十分にイメージをもたせることができず，文字が動きと十分に結びつくまでには至っていなかったと感じた。実際にやってみせたことや友達がやっていることをみんなでやってみるという活動を単元の初めだけでなく，単元全体を通して取り入れてもよかったと考える。児童の思考場面と活動量を確保しつつ，動きを広げることが課題であると感じた。

② 思考力，判断力，表現力等

ローテーション運動に入る前や活動後に，バディで話し合う場面をつくることで，児童がどんな動きをやってみたいか，どんな工夫ができそうか考えながら活動することができていた。

工夫とは，選ぶことであるという認識であったが，工夫の中身の構成が大切であり，授業の意図に見合った工夫を授業者がきちんと持ち，取り上げることが不十分であったと感じる。また低学年の子どたちにとっては，あくまで「遊び」であり，動きを楽しむための工夫という意識をもって授業を行わないと，児童と授業者との工夫にズレが出てくるということを学んだ。

③ 学びに向かう力，人間性等

児童は，アドベンチャーランドに行くことをいつも楽しみにしていた。スーパー１年生に近づけるように,「目と耳と心で話を聞くこと」「いつでもどこでもだれとでも」「安全」という３つの約束を意識しながら，学習に向かうことができていた。運動や友達との直接的な関わりを苦手とする児童も，いつもより楽しそうに活動する姿が見られた。しかし，場を離れてしまう場面もあり，もっと一緒に楽しく運動できるような手立てが必要であったと感じた。

(3)今後の取り組み

単元を通しての成果は，テンポよく学習を進めることで，１時間での活動量を確保し，飽きることなく様々な動きを経験させることができたことが挙げられる。またこれまで同じような友達とバディを組むことが多くなっていたが，今回の授業で毎回違う友達とバディを組み，出来るだけ男女で組めるように促したことで，児童が今まで組んだことなかったような友達とバディを組み，楽しんで運動に取り組めたことがよかったと考える。

課題としては，児童にさせたい工夫や経験させたい動きや思考が促すための単元を通した手立てがもっとあればよかった。また，１年生にとっては，体づくりの単元では今回のように６時間ではなく，もっとゆったりとした時間構成にして，色々な動きの経験をさせていくのが良いのではないかと考える。